

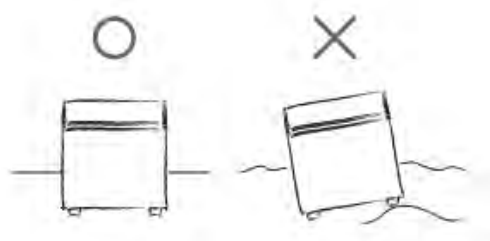
## 7 正しい使い方

製品を使用される時は以下の『正しい使い方』をよくお読みいただき、お使いください。  
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

注：真空ポンプにオイル注入済みです。

### 7-1 製品の設置

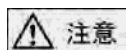
FCB-410 は卓上型シーラーです。水平な面を持つ適切な作業台の上に設置してください。



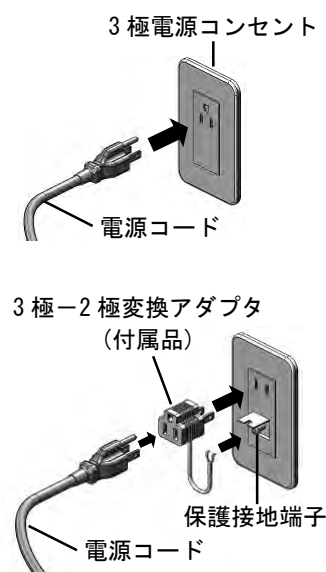
### 7-2 電源コードの接続

製品仕様を満たす電源コンセントに、電源コードのプラグを根元まで差し込んでください。電源コンセントは本製品単独でご使用ください。

感電や機器の損傷を防ぐため、必ず保護接地をしてください。本製品の電源コードは、保護接地端子のある 3 極電源コンセントに接続してください(右上図参照)。やむを得ず、2 極電源コンセントに接続するときは、付属の 3 極-2 極変換アダプタを使用して、電源コンセントの保護接地端子に変換アダプタの接地線を確実に接続してください(右下図参照)。



規定の容量に合わない場合、火災などが発生する危険性があります。



### 7-3 暖機運転について

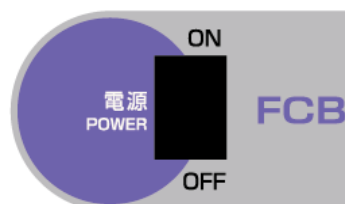
使用前と使用後は必ず暖機運転を行ってください。暖機運転を行わないと、真空性能の劣化や真空ポンプの起動不良・故障の原因となります。

電源スイッチ ON にて使用前の暖機運転が始まります。

電源スイッチ OFF にて使用後の暖機運転が始まります。

### 7-4 電源スイッチ ON

コントロールパネルの電源スイッチを ON 状態にしてください。コントロールパネルのディスプレイが点灯し、カウンター値を表示します。また、使用前の暖機運転が始まり、約 10 分後に自動的に終了します。“ストップ” ボタンを押すと暖機運転を終了させることができます。



## 7-5 コントロールパネルでシール条件を設定

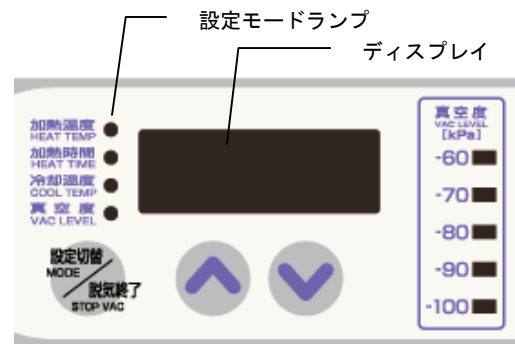
コントロールパネルで加熱温度・加熱時間・冷却温度・真空度を設定します。

袋（フィルム）の材質、厚さなどにより設定値は変わりますので、異なる袋（フィルム）を使用される時はその都度設定してください。“設定切替/脱気終了”ボタンを押すとカウンタ値→加熱温度→加熱時間→冷却温度→真空度の順にディスプレイに呼び出せます。

呼び出されたモードはランプが点灯します。

どのモードランプも点灯していない時はカウンタモードになっている時です。

**MEMO** カウンタ値を“0000”にしたい場合は、“設定切替/脱気終了”ボタンを押して、設定モードランプが点灯していない状態で、、 ボタンを押してください。



### □加熱温度の設定

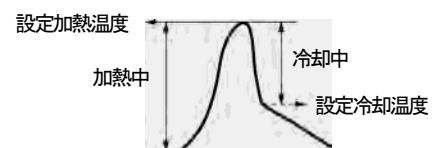
- ・「加熱温度」のモードにして 、 ボタンで数値を増減して設定します。[90～200℃の範囲]
- ・使用される包装フィルム（袋）の材質により適切な溶融温度は異なります。
- ・シールができる最低の温度に設定してください。作業速度が上がり、部品の無駄な消耗を抑えます。

### □加熱時間の設定

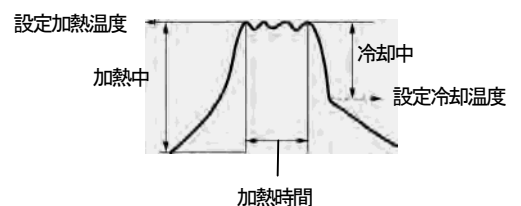
- ・「加熱時間」のモードにして 、 ボタンで数値を増減して設定します。[0.0～3.0 秒の範囲]
- ・温度制御における加熱時間とは設定された温度を維持させる時間のことで、通常は、加熱温度を設定しなくても（加熱時間を 0.0 秒にしても）シールはできます。

包装フィルム（袋）に厚みがあり、加熱時間を上げてもシールができない場合やシールができてフィルムがダメージを受けている場合のみ加熱時間を設定すると効果が期待できます。

加熱時間を設定しない場合の加熱温度測定グラフの軌跡



加熱時間を設定した場合の加熱温度測定グラフの軌跡



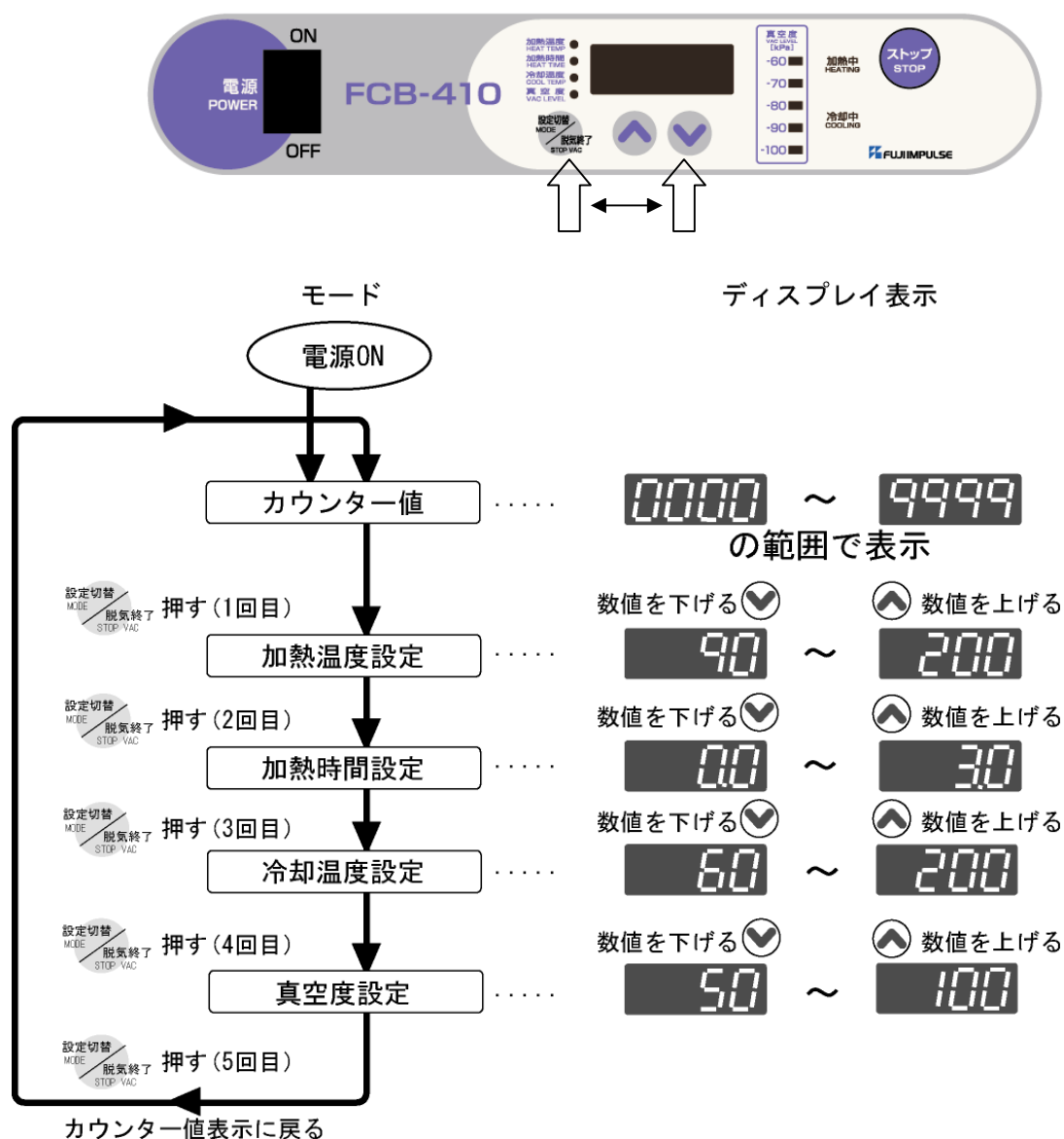
## □冷却温度の設定

- ・「冷却温度」のモードにして 、 ボタンで数値を増減して設定します。  
[60～200℃（加熱設定温度）の範囲]

## □真空度の設定

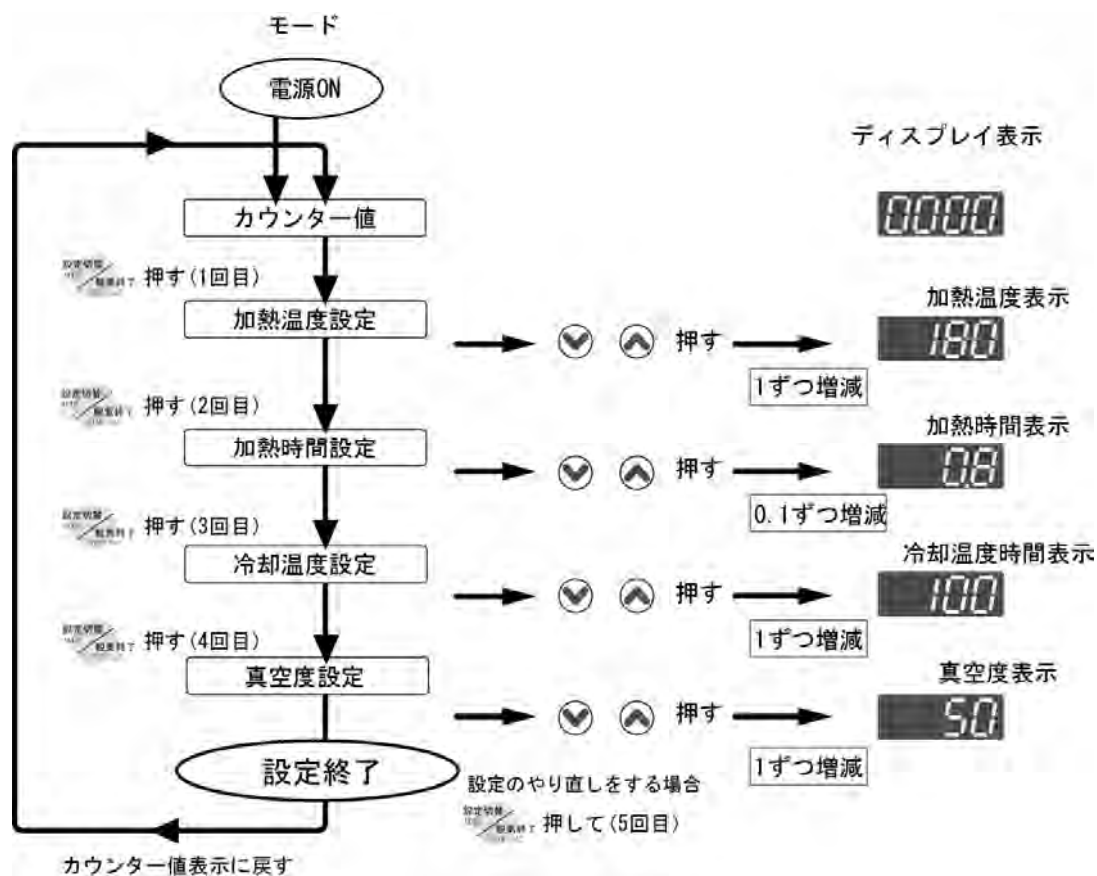
- ・「真空度」のモードにして 、 ボタンで数値を増減して設定します。  
[-50～-100kPa の範囲]

## 各モードの設定手順



## 各モードの設定手順例

設定数值例：加熱温度 180℃ 加熱時間 0.8 秒 冷却温度 100℃ 真空度 -50kPa

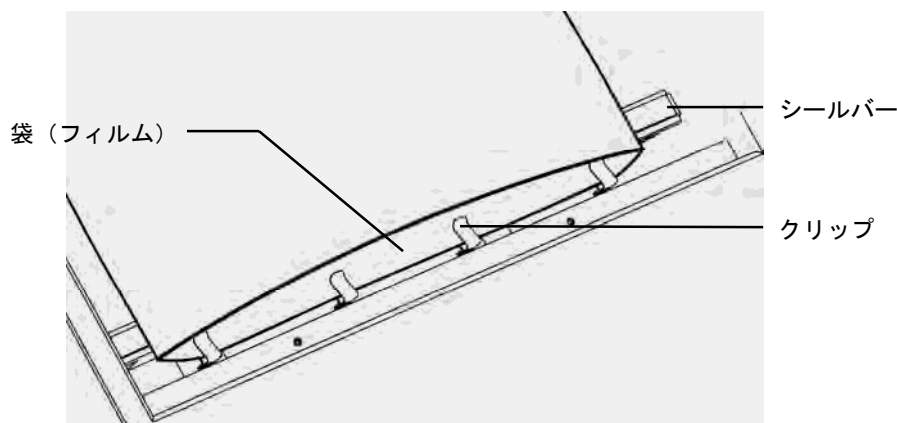


## 7-6 袋をセットする

開閉フタを開けて、内容物の入った袋(フィルム)の端をシール受板にセットしてください。

シール受板の後方のクリップに、図のように袋のフィルム  
の下側を挟むと脱気中に袋が動くことなく安定します。

フィルムの上側と下側を挟み込むとフィルム内の空気が抜けないので、クリップの挟み方は注意して行ってください。



**注！** 焼きたて、煮たての熱いものは入れないでください。

**注！** 袋をセットする時、シール位置を確認しながら、袋の両端を引っ張り、しわができないようにしてください。

**注！** シール不良の原因となりますので、袋の内容物を入れるとき、シールされようとする袋の開口部に水分や油などが付着しないようにしてください。

**注！** チャンバー内は常に清潔に保ってください。  
水分などが残っていたら必ず拭き取ってください。  
真空度が上がらない場合があります。

**MEMO** 袋がセットしにくい時は、付属品のガイドプレートとガイドベースをご利用ください。

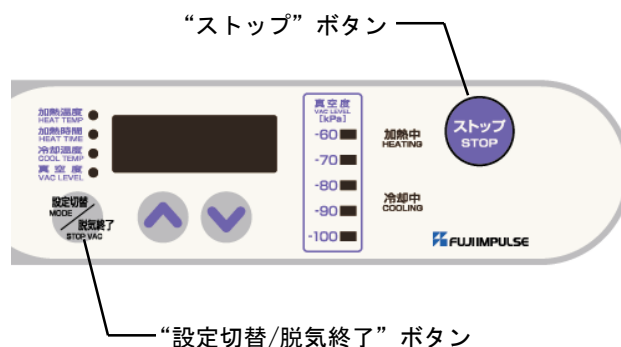
### 7-7 開閉フタを閉めてスタート

以下の1～5は自動運転で行われます。

- 1 開閉フタを閉めると真空ポンプが作動し、チャンバー内部の真空引きを開始します。
- ↓
- 2 チャンバー内の真空度を表示します。(目安)
- ↓
- 3 設定真空度になると、真空ポンプが停止します。
- ↓
- 4 シール(加熱・冷却)を開始します。
- ↓
- 5 “ピーッ”と4回鳴ると、シール完了です。

**注！** 作業途中で停止したい場合は、“ストップ”ボタンを押してください。

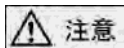
**注！** 脱氣中にシールに移行したい場合は“設定切替/脱氣終了”ボタンを押すと加熱工程に移ります。



### 7-8 シールのできあがり

開閉フタが開いたら袋を取り出してください。

うまくシールができていない場合は、再度設定をやり直してください。

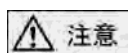


**注意**

開閉フタは自動で開きますのでご注意ください。

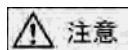
### 7-9 作業終了のしかた

- 1 コントロールパネルの電源スイッチをOFFにすると、自動的に真空ポンプの暖機運転が、約10分間行われ自動で終了します。



注意

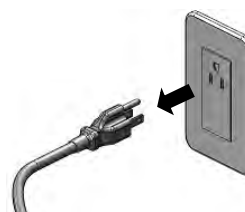
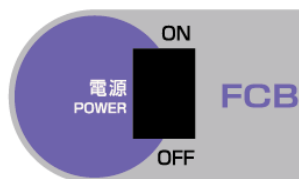
暖機運転の途中でコンセントから電源プラグを抜かないでください。



注意

1日の作業終了後は、必ず暖機運転を行ってください。

- 2 真空ポンプの暖機運転終了後、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。



長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
コンセントから抜くときは、電源プラグを手で持って抜いてください。